

## ●刈草集め 27日31日に実施 2月20日に完了目指して大奮闘

木津川希少種植物調査管理業務のうち除草作業が最も厳しい仕事でしたが、ハンマーモアの導入で肩掛け草払機での作業から随分解放されました。しかし刈草の集草作業の作業軽減を目指して導入した集草機は平坦部分での作業では随分威力を発揮するものの、木津川堤防などの傾斜地では転倒の使用限界を超えるので能力的に使用が不可能になりますから、従来通り人力でのレーキで実施しなくてはなりませんので能率が落ちますし、体力を必要とされます。今ではもっとも重労働の作業となっています。それでも里山の皆さんは希少植物の生育管理のために連日奮闘いただいています。

●私たち里山の会は発足して25年前から木津川にはそれほど大切な植物は生えていないと考えていました。ところが八幡市から木津川加茂町までの木津川堤防(24km)の両岸には917種類の植物が生育していることがわかりました。そして、そのうちでイヌハギやレンリソウ、フナバラソウは1か所にしか生育していないこともわかりました。又複数の生育地を発見していますがレッドデータブックで絶滅寸前種とされているものは8種類を確認しています。そのほか希少種植物は100種をはるかに超えている大変豊かな貴重な堤防の木津川になっているのです。治山治水と言われ洪水や災害を防ぐのが堤防の大きな役割だとこれまで考えられてきましたが、非常に豊かな多様な食物連鎖を長年保持してきているのです。タヌキやキツネの大型陸上生物、オオタカやノスリの頂点に位置する野鳥類、40種類を超す魚類、そのほか昆虫類等は想像を超えるものが生育しています。木津川堤防の草刈りは、防災のための堤防維持点検が大きな目的ですが多様な生き物にとって重要な生育場所となっています。私たち里山の会は活動記録を大事な取り組みとして、これからも継続していきたいと思えます。

## ●中聖牛資材運搬通路できる 松美建設の協力

今年で5年目になる中聖牛の設置になります。設置現場までの諸資材の運び込みに最も苦勞をしています。5年前、第1回目の竹蛇籠の設置の場所への通路確保(15km付近)は背の高さをはるかに超えるススキ原の中をガムシャラに草刈りをしました。中聖牛の初年度は約1km以上の洪水跡の高水敷で通路を探りながら確保するという途方もない中での作業で2日も3日も費やしました。見かねた木津川事務所が維持作業業者に重機を使用して通路を確保する援助をいただき、その後の取り組みが平易に進められました。今回は前回とは全く条件が違って自転車道の横断、そして小運搬通路の確保で予想していない砂丘部分があるなど四駆の軽トラが前進できなくなる難所がでてくるなど、これまでにない難関があります。それでも松美建設さんは資材を運びこむ一方、棟木の持ち上げに協力をいただき、初日に最も危険で難しい棟木を4基とも上げきるところまでご協力をいただきました。

●本日の事務局会議で残る作業で栗石の投入は人海戦術(100人)なのでかなり多くの人手を集めなければならないので、できるだけ知人友人など協力者に働きかけることが必要と強調されました。中聖牛に関心をお持ちの皆さんはもちろんですが、幅広く呼びかけをしなければなりません。そのためには案内概要を示すチラシが必要なので、播川理事が今夜(2日)に作って明日の週刊ニュースに間に合わせようと合意しました。

そのほか同志社大学や摂南大学、奈良女子大学の学生さんに参加呼びかけること、そして里山農園参加者の方々にも強力に呼び掛ける事、そして里山の会のイベントに参加されて来た方々に呼びかけることが必要だと強調されました。

特にこれまで友好的な関係にあった木津川マラソンの関係者にも働きかける事が強調されました。ニュースをご覧になった皆さん23日と26日は9時30分から12時過ぎまでご協力の時間として精華町開橋西詰めにご参集をお願いします。

## ●ヤマトサンショウウオ生育池 土砂流出防止工事の現場京都府と京田辺市が視察

京都府の条例で「絶滅のおそれのある生き物」と制定されているもの25種があって、里山の会はヤマトサンショウウオの管理団体に認定されています。その生育池付近から土砂が流出し、下流の田圃に流れ込んでいるので、その防止工事を地主さんが行われる意向です。工事が行われると生育池への水が流入されなくなり枯渇し、去年は27個の卵嚢が産み落とされた優れた環境池が無くなる可能性が大きいので、流入口と流出路を作って池の乾燥枯渇を防がなければと里山の会は考えています。対応策の経費は地主さんの負担でなくと思っています。そのための現地視察（京都府と京田辺市）が行われました。里山の会からは大村理事長が案内をしました。

## ●地域説明会 宇治田原町で成功する

当日、有田理事がお誘いしていた元の職場の友人が奥さんと来られその方が友人を電話でさそってくださいました。当日今からと突然な案内でしたが、快く答えていただき沢山の皆さんが駆けつけてくださいました。以前里山の会員で木津川での七草摘みや七草粥のために大奮闘してくださった坂本様などの他、歴史に詳しい大先輩など、多くの興味持つ皆さんが来所され、にぎやかな催しになりました。特に枚方市から宇治田原会場に来られたお方があったことにびっくりしました。

## ●年度末が迫り里山の会は三つの助成金を受けていますので報告書づくりが大変です

2021年度は国交省近畿整備局や京都府山城振興局、そして京都大学防災研究所からの受注作業を受けて活動を行ってきました。木津川希少種植生調査管理業務は40か所の生育調査結果を、そして年間2回の除草作業（刈草除去）の実施結果、そして中聖牛4基の設置という大きな作業を伴うものです。いずれも成果として記録集や写真、正確な領収書を揃えなければなりません。同時に成果や効果などを表すものを含めて紙ベースで一式が必要です。そしてCD化した電子記録も求められています。これ迄行ってきた用紙報告に加えてパソコンでの報告が求められて来ています。なかなか高齢者にとって手に負えない作業が続きます。

## ●次年度の交付金申請書づくりも始まっていますので 2月3月は目の回る忙しさです。

それに付け加えて新年度の事業としての交付申請にも取り掛からねばならない時期になっています。里山農園の充実には欠かせなかった平和堂の夏原グラントの交付金申請は1月31日が締め切り日でありました。12月に同志社大学サッカー部の皆さんにお世話になった里山農園の丸山の除草作業を危険箇所除去とシンボリックな東屋の建設を計画して申請しました。先ほどの年度報告書に加えて新年度の事業計画や助成金申請そして会誌52号の編集と本体の里山の会の2021年度の活動のまとめ2022年度の活動方針や予算案活動日程の決定が年末の大仕事になってきています。

●新年度（2022年度）の事業計画で、新しいイベントを希望される方、どしどし提案をお願いします。

●新会員募集を行っています 四月最初の定番活動は馬坂川で行う「親子花見乗船体験」です。そして引き続いて里山農園で実施予定している「春の野草を食する会」です。いずれも20年近く継続している人気の定番活動です。

### 中聖牛 栗石詰めにご参加を

2月23日（祭日）26日（土）27日（日）  
いずれも午前9時30分から12時過ぎまで  
集合場所 開橋西詰め 作業現場まで移動

### 中聖牛組立てにご参加を

2月5日6日 11日12日13日 19日20日  
いずれも午前9時30分から12時過ぎまで  
集合場所 開橋西詰め 作業現場まで移動